岡三にいがた
県内企業レーティング情報

岡三証券グループ
岡三にいがた証券
OKASAN NIIGATA SECURITIES

コロナ（5909　東証スタンダード）

2025年6月10日

住宅設備機器の売上が過去最高を更新、新たに第10次中期経営計画を策定

レーティング

中立　（前回：中立 ）

目標株価

950 円（前回：1,050円 ）

株価	＝ 899 円	（ 25年6月9日 ）	
年初来高値	＝ 989 円	（ 25年3月24日 ）	
年初来安値	＝ 844 円	（ 25年4月7日 ）	
予想PER（連結）	＝ 26.3 倍	（ 26/3期 ）	
予想PER（連結）	＝ 21.9 倍	（ 27/3期 ）	
実績PBR（連結）	＝ 0.34 倍	（ 25/3期 ）	
予想ROE（連結）	＝ 1.3 %	（ 26/3期 ）	
時価総額	263 億円		
発行済株式数（除く自己株）	29,208 千株		
予想配当利回り	＝ 3.11 %	（ 26/3期 ）	

エクイティ情報部

原田　俊介

川﨑　愛子

＜アナリストの視点＞

25/3期の連結売上高は、前期比3.9%増の852億円、営業利益は同0.9%減の13億円となった。暖房機器は昨年の流通在庫過多や需要期前半の暖冬傾向などから減少。一方、住宅設備機器、空調・家電機器が好調に推移した。利益面では、原材料など仕入れ価格や物流費の上昇が利益を押し下げた。新たに策定した第10次中期経営計画（～28/3期）では、8つの戦略（裏面参照）を遂行し、売上高878億円、経常利益20億円を目指す。26/3期はエコキュートの普及拡大、買い替え需要、補助金制度の後押しによる好調持続が見込まれる。暖房機器は暮らしの楽しみや可能性を拡大する商品開発を進め、ルームエアコンは省エネ性やIoT、清潔性など付加価値商品で需要を取り込む方針。

＜26/3期は増収営業減益を見込む＞

岡三にいがた証券では、26/3期の連結売上高を前期比2.1%増の870億円、営業利益を同25.5%減の10億円と予想。エコキュートを中心とした住設機器の売上伸長で、季節要因に左右されない売上高の平準化が進むとみる。利益面では、非鉄等の原材料や仕入れ価格、人件費・物流費の上昇が利益圧迫要因となるため、営業減益を予想する。

＜目標株価算定根拠＞

エコキュート市場の拡大を追い風に、住設機器の成長余地は大きいとみる。ただ、原材料を含めたコスト増の影響は大きく、バリュエーション上昇には収益性改善が必要となろう。PBRで52週平均（0.36倍）程度の評価が妥当と考え、目標株価を950円（25/3期実績BPS：2611.63円×0.36倍）、レーティングを「中立」とする。

＜業績推移＞　日本基準

単位：百万円、EPS・一株配当金は円

決算期（年/月）		売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	一株配当金
2023/03		85,335	1,901	2,289	1,482	50.82	28.00
2024/03		82,046	1,355	1,767	1,306	44.76	28.00
2025/03		85,214	1,343	1,704	1,103	37.80	28.00
2026/03(予)	会社	86,700	1,000	1,400	1,000	34.24	28.00
	弊社前回	86,500	1,600	2,000	1,500	51.36	28.00
	弊社今回	87,000	1,000	1,400	1,000	34.24	28.00
2027/03(予)	弊社前回	-	-	-	-	-	-
	弊社今回	88,000	1,300	1,700	1,200	41.08	28.00

巻末に重要な注意事項が記載されていますので、十分にお読みください。

コロナ（5909　東証スタンダード）

＜製品種類別連結売上高＞

（単位：百万円）

		21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期 会社計画
売上高	住宅設備機器	31,054	31,553	36,993	35,870	40,095	42,600
	暖房機器	26,286	25,110	27,532	26,398	23,802	24,400
	空調・家電機器	18,778	15,494	14,012	13,231	15,067	14,000
	その他	5,527	6,489	6,797	6,545	6,248	5,700
	合計	81,646	78,648	85,335	82,046	85,214	86,700

出所：会社資料、作成：岡三にいがた証券、端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。
22/3期より収益認識に関する会計基準等を適用

＜第10次中期経営計画骨子＞

2026ビジョン	脱炭素社会への貢献 レジリエンスな社会	快適の進化 暮らしの質向上	利益体質への転換
基本戦略 （レベル1）	**基本戦略1** 脱炭素社会に向けた 事業ポートフォリオの再構築	**基本戦略2** 「楽」から「楽しい」への 事業領域拡大	**基本戦略3** 経営基盤の再構築
事業戦略 機能戦略 （レベル2）	戦略1 エコキュートを柱とした成長分野への投資と事業収益の拡大	戦略4 アウトドアの領域拡大	戦略6 業務プロセス改革とDX推進
	戦略2 ヒートポンプ・電化商材による住設事業の拡張	戦略5 QOL向上商品の拡大 QOL＝Quality of Life（生活の質）	戦略7 開発リソース最適化とスピードアップ
	戦略3 新たな要素技術・新エネルギーのR&D		戦略8 人財活力の向上
重点施策	ブランディング推進	海外市場の探索	顧客接点・D2C強化	業務パフォーマンス向上 →入りをはかり、出ずるを制する

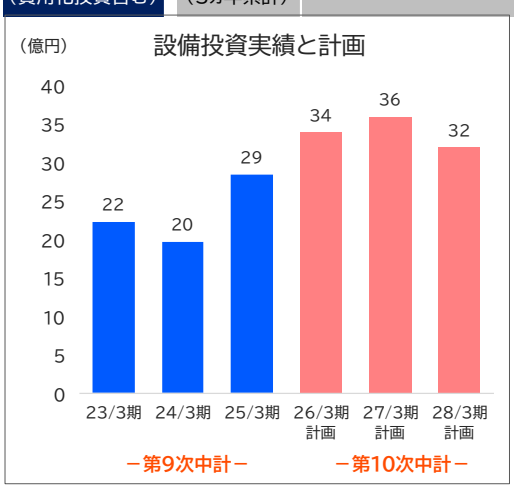
出所：会社資料、作成：岡三にいがた証券

＜第10次中期経営計画：目標数値と設備投資額＞

	25/3期実績（百万円）	28/3期（計画）（百万円）
連結売上高	85,214	87,800
連結経常利益	1,704	2,000
連結経常利益率	2.0%	2.3%

出所：会社資料、作成：岡三にいがた証券

投資計画（費用化投資含む）　102億円（3ヵ年累計）　＜前中計比：44.4%増＞



重要な注意事項

アナリスト証明

岡三にいがた証券は、当社のアナリスト・レポートに記載されているすべての見解には、各アナリストの意見のみが反映されており、過去においても将来においても、また、直接的にも間接的にも、本レポートにおける特定の推奨または意見の対価としてアナリストに報酬が支払われることはないことを証明します。

レーティングの基準

強 気：今後12ヵ月以内の目標株価が現在の株価を15%以上上回ると予想される銘柄
中 立：今後12ヵ月以内の目標株価と現在の株価の差が±15%未満と予想される銘柄
弱 気：今後12ヵ月以内の目標株価が現在の株価を15%以上下回ると予想される銘柄

目標株価の定義と未達成リスクについて

目標株価は、アナリストによる当該企業の業績予想を基に、マルチプル法やDCF法等の岡三にいがた証券エクイティ情報部が妥当と考える方法により算出したもので、対象期間は12ヵ月以内です。目標株価達成を阻むリスク要因としては、当該企業の主要市場における競合状況（企業買収・訴訟なども含む）、製品・商品・サービス需要の変動、原材料及び燃料価格の変動のほか、当該企業を取り巻く経済状況、為替相場の変動、国内外の金融・不動産市場の状況、各種規制変更、事故・災害（人災含む）、社会的責任などが考えられます。なお、これらの要因以外にも、現時点で予想できないリスクが将来的に発生し、その結果として目標株価達成が妨げられるおそれがあります。

本レポートにおける個別銘柄に関する注意事項

・個別銘柄のレーティングについては、執筆アナリストの変更があった場合でも、岡三にいがた証券としての個別銘柄のレーティングの継続性を保つため、前任者の付与したレーティングを「前回」レーティングとして記載しています。
・株価は日付日の終値。年初来高値・安値は権利落ち修正後で、各取引所の立会市場の売買立会時（前場・後場）における約定値段を用いています。
・上場市場は東京証券取引所の場合、記載せず、複数市場上場の場合は売買高の多い市場を記載しています。
・時価総額など、特に日付を記載していない場合は、個別銘柄の株価日付と同じです。
・PBRの根拠となるBPSは会社公表数値を用いていますが、必要に応じて岡三にいがた証券が算出しています。
・ROEの根拠となる自己資本は必要に応じて純資産から新株予約権と非支配（株主）持分の金額を控除した金額を用いています。
・予想EPSは当期利益（会社計画、前回予想を含む）を記載の発行済株式数で除して計算しています。なお、払い込み前の公募、権利落ち前の株式分割等は考慮しておりません。
・時価総額は記載の株価と発行済株式数で計算しています。
・発行済株式数は自己株を含んでおりません。株式数は会社公表数値を原則として用いておりますが、株式分割、公募増資、自己株買入れなど必要に応じて岡三にいがた証券の推定による試算値を用いる場合があります。
・日本基準の連結当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です（2015年４月１日以後開始する連結会計年度の期首から適用）。
・米国会計基準の当期利益は、当社株主に帰属する当期純利益です。
・国際会計基準（IFRS）の当期利益は、親会社の所有者に帰属する当期利益です。

免責事項

・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。

・本レポートは、岡三にいがた証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、その責を負うものではありません。また、本レポートに記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三にいがた証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。なお、本レポートは、日本証券業協会「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則」のアナリスト・レポートとして審査されたものです。

有価証券や金銭のお預りについて

・有価証券や金銭を当社の口座でお預りする場合には、当社では料金を頂戴いたしません。なお、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じ、1銘柄あたり6,600円（税込み）を上限として口座振替手数料をいただきます。
・お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

株　式

・株式の売買取引には、約定代金（単価×数量）に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%（税込み）の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

信用取引

・信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750 円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ100万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

〇金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。当該金融商品の取引契約をされる場合、その金融商品の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。
〇2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。
〇岡三にいがた証券およびその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている証券もしくは金融商品について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。
〇自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。
〇本レポートは岡三にいがた証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三にいがた証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

岡三にいがた証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第169号
加入協会：日本証券業協会

（2024年7月改訂）